

令和三年度
活動目標

本校長会は、学校が更に発展を続けることを目指し、以下の八点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

- 一 自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す 学校経営の推進《具体目標》
- 二 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識や能力の高揚
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覽

宇都宮・上三川 松本 和士

宇都宮市立戸祭小学校
新学習指導要領の着実な実施やGIGAスクール構想の実現、働き方改革の一層の推進に向け、校長会のネットワークを生かし組織的・協働的な取組に努めます。

上野市 白石 光人

日光市立大沢小学校
コロナ禍において、情報の共有は、より一層大切になります。日光市、鹿沼市の校長が交流し、情報交換しながら、今日的課題に取り組む校長会を目指します。

芳賀 水沼 隆

真岡市立真岡小学校
一市四町二十八名の校長が連携し、積極的な研修や情報交換を通して、学校経営の充実と今日的課題の解決に向けて意欲的に取り組む校長会を目指します。

下都賀 飯島 快尚

野木町立野木小学校
壬生町・野木町の十三名の校長が情報を共有しながら、新型コロナウイルス感

染症への対応、GIGAスクール構想の実現などに積極的に取り組みます。

下野市 隅内 宏

下野市立国分寺東小学校
コロナ禍そして、来春の義務教育学校設立に向けて三校が閉校に向かう一年。十一名の校長がともに連携・協力しながら、学校経営の充実を目指します。

小山市 菅沼 克博

小山市立大谷北小学校
学校経営の充実のため、情報を共有して連携を一層深め、「危機管理」と「資質向上」を重点とし、協働する校長会にしていきたいと思ひます。

栃木市 山口 勉

栃木市立大宮北小学校
二十九名の校長が連携・協力し、本市名誉市民・山本有三の精神である「生命・人権尊重」を基盤に、コロナ禍における教育の創造と充実に向けて参ります。

塩谷 北原 博司

さくら市立氏家小学校
志高い二市二町二十三名の会員が、情報共有し合い、最高経営責任者として最上位目標を明確にし、持続可能な学校づくりに邁進できる校長会を目指します。

那須 小針 和彦

大田原市立川西小学校
四十六名の会員が、ともに連携・協力しながら自己の資質・能力の向上と各学校及び本地区学校教育の諸課題の解決に主体的に取り組む校長会を目指します。

南那須 野田 充昭

那須烏山市立荒川小学校
付加体八溝山地と清流那珂川流域に広がる一市一町八名の会員が地域の課題や今日的課題を取り上げ、連携・協力しながら研究していく校長会を目指します。

佐野市 豊原 守

佐野市立城北小学校
会員間の情報共有と建設的な意見交換によって、学校経営の充実と今日的な

諸課題解決に向けて、連携し行動する校長会を目指します。

足利市 竹内 悦朗

足利市立青葉小学校
日本最古の学校である足利学校のある足利市の教育を力強く進めていくために、自学自習の精神を大切にし、自らの資質の向上に取り組む校長会を目指します。

令和三年度
役員一覽

会長 丸山周二(宇・中央)
副会長 松本和士(宇・戸祭)

豊原 守(佐・城北)

隅内 宏 (下・国分寺東)

山口 勉 (栃・大宮北)

書記 宇梶浩明(宇・桜)

樽井圭子(宇・緑が丘)

白石光人(上・大沢)

浪花なをみ(宇細谷)

生田 敦(宇・西原)

早川理恵(足・桜)

小池正夫(塩・東)

中田 隆(下・南赤塚)

森 秀明 (那・両郷中央)

会計監査

専門部
活動方針

総務部

部長 手塚 浩
宇・陽東小学校

主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

- ・ 本会の事業推進及び連絡調整
- ・ 教育懇談会等による対策活動
- ・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付等

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出 (小中学校長会で作成、中学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会に参加 (本県の実情等の発表及び他県の情報収集)

研修部

部長 高橋 司
宇・石井小学校

主題

自ら未来を創造し、ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営の推進

二 活動方針

全連小大会主題と県小学校長会の基本目標に基づき、活動を推進する。

三 活動目標・内容

(一) 各地区の研修計画に基づく全員参加による研修の充実と推進

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十三回全連小石川大会への参加

・ 第六十四回中央研究大会の実施

※関プロ栃木大会が、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い誌上発表となったことを受け、大会と兼ねる予定であった中央研究大会において研究発表と分散会を実施する。

(三) 関プロ栃木大会における提案の振り返りと継続研究

(四) 研修記録「第六十一号」の発行

調査部

部長 朝倉 真美
宇・東小学校

主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての諸調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動の内容や方法を調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料として提供する。

(一) 人材育成について (三年次)

(二) 小学校における教科担任制について (一年次)

※新たなテーマとして「小学校における教科担任制」を取り上げ、引き続きである「人材育成」とともにアンケートの実施を予定しています。

七月上旬に、作成したアンケートを各校へ配信いたしますので、期限までに、各地区調査部長へ回答をいただきますようお願いいたします。

調査の結果につきましては、小学校長研修記録「第六十一号」に掲載いたしますので、各校の教育活動改善の資料としてご活用ください。

厚生部

部長 森田 浩子
宇・姿川第二小学校

主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和三年度は、中学校長会の慶弔会計が県小中学校長会慶弔の会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 高野 孝夫
宇・峰小学校

主題

県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長が今日的課題や当面する学校経営上の諸問題に取り組む際の情報を提供する。

(一) 校長会報の年二回発行 (七月・二月)

・ 特色ある学校づくり・豊かな心を育てる学校経営

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力 (機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理



主張 未来につながる魅力的な職場環境に

栃木県小学校長会副会長 松本 和士



今年一月、中央教育審議会答申により新しい学校教育のイメージが示され、とりわけGIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用には、次世代の学校づくりの始まりを実感します。

その一方で、小学校教員の採用倍率が全国的に低迷し、教員不足が深刻化している現状を伝える記事を多く目にするようになりました。本県の教員採用でも同じ課題を抱えており、学校現場では補充教員の確保に苦慮する状況も見られます。

この背景にあると指摘されるのは、大量退職による教員の採用増と教員志望者の減少です。過去にも大量採用の時期があり、人材の供給不足に陥ることがないまま、採用倍率は次第に回復していったことはありましたが、現状のままです。再びこれを期待することは難しいように感じます。教員の大量退職に加え、義務標準法の改正によ

る学級編制基準の段階的引き下げや、小学校高学年における教科担任制の導入によって、教員免許状所有者のニーズが高まり、窮状が更に深まることも予測されます。

国が掲げる新しい学校教育を実現するには、教員志望者の裾野を広げ、質の確保を図ることが不可欠であり、養成、採用段階での制度改革が既に始まっています。しかし、これに頼るばかりではなく、教職志望の若者の数を増やし、教育現場から遠ざかっている教員免許所有者を学校へと呼び込むには、学校自らが次世代の学校づくりを進める中で職場環境を改善していくことが必要なのだと思います。

各学校はこの一年、コロナ禍で業務負担が増す中、これまで当たり前前としてきた学校の在り方を見直してきました。この経験を活かして働き方改革を更に一歩進め、未来を担う子どもたちに必要な力を育むため、教職員一人一人がやりがいをもって勤務する魅力的な職場となつていくかを意識しながら学校運営に努めたいものです。

主張 転換期

栃木県小学校長会副会長 豊原 守



昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、これまで「当たり前なこと」として行っていた教育活動を大胆に変更することになった。

本校は児童数が八百人の大規模校である。感染者が現れる可能性は高く、校内感染が広がれば、地域への影響も大きい。感染症対策は、最優先事項となった。

一昨年度の運動会は、土曜日に児童の家族、地域の方々を迎えて、大歓声に包まれる一大行事だった。しかし、昨年度は密を避けるために、二学年ずつ三つのグループに分けて、平日三日間を当てて、児童と職員だけで実施した。

その時考えたのは、「そもそも児童にとつて運動会とは何か」ということであった。教育活動の本質的な部分をしっかりと見つめ直し、職員と児童とが一緒になつて新しい運動会を創れたことは、私の学校観を大きく変えた。

振り返れば、学校教育は、「みんなと同じことができる」質のそろった国民を育てることが重視されてきたように思われる。これからは、予測困難な時代の課題について、主体的、協働的に解決することができる創造的な人間を育てることが強く求められている。新しい運動会を創る過程で、新しい学校の姿がぼんやり見えた気がした。

我々は、時代の「転換期」にいる。これまでの学校のよさを引き継ぎながら、真に必要な教育活動を行う、変化を恐れない挑戦的な学校経営をすることが求められているのだと思う。「令和の日本型学校教育」の構築に勇気をもって取り組んでいきたい。

校長会は、情報を共有する場、課題を共に考える場である。また、連帯して環境改善を働きかける役割を担っている。学校を変える挑戦をする上で、頼もしく感じる存在となるだろう。微力ながら、そのために貢献できるよう努めたいと思う。

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

「主体的・対話的で育み合える」児童・教師・地域を育てる学校づくり

市貝町立市貝小学校 高木 達

本校は、創立三十九年目を迎え、開校当初からの「さとく、やさしく、たくましく」という学校目標を大切にし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指し、「生きる力」を備えた児童の育成に努めています。

今年度は、学校経営目標に「児童・教師・地域に笑顔を届ける学校経営」を掲げ、それぞれが「主体的・対話的で育み合える」学校づくりを目指し、実践を積み重ねています。

まず、児童に笑顔を届けるためには、本校で学んでよかったと話してくれる将来の児童の姿を目指した学習や生活指導を充実させることだと考えます。

特徴的な実践は、JRCの理念「気づき、考え、実行する」を大切にした学習や生活面の指導の充実です。日常指導では、日々の生活の基本として、「あいさつ、あつまり、あとしまつ、キラリ輝く市貝っ子」を合い言葉とした3あ運動に取り組んでいます。思いやりや心やJRCの理念を基盤としながら、生活の基本となる「あいさつやあつまり、あとしまつ」をしつ

かり行おうという運動です。

学習面でもJRCの理念を生かしながら、主体的・対話的で深い学びの実現のためにICTを活用した新しい学びの創造を目標に、先生方が生き生きと指導の工夫・改善に取り組んでいます。働きがいのある学校、教師が育つ学校にすることも学校経営の大きな目標です。

また、地域・保護者との協働活動、学校支援ボランティア活動も充実しています。学期ごとの「情報交換会」で地域コーディネーターとの連携を密にし、保護者や地域の方が笑顔で参加してくださるよう様々な学習を実践しています。

これからも、「主体的・対話的で育み合える」児童・教師・保護者を育て、地域とともにある学校の実現のため、様々な実践を工夫し行っていくと考えています。



朝のあいさつ運動

元気いっぱい 笑顔いっぱい 瞳かがやく石塚っ子

佐野市立石塚小学校 前出 哲子

一 石塚小学校について

本校は、佐野市の西に位置し、旗川の東岸と国道二九三号の南側に囲まれた地域にあります。校庭が広く、学校緑化に力を入れてきた経緯があり、自然に恵まれた環境を多くの児童が誇りにしています。

本年度で創立百四十八年目となり、児童数百四十六名の歴史と伝統のある学校です。本校の学校教育目標は、○明るく たくましい子ども ○よく考えて 学習する子ども ○責任を重んじ 助け合う子どもです。

二 豊かな心を育てる学校経営

本校は、インクルーシブ教育システム構築の研究指定を七年前に受け、その後も学校研究課題に取り込み、力を入れて推進してきました。障害のある児童や特別な教育的支援を必要とする児童に対して合理的配慮を工夫し、更に全ての児童に対して基礎的環境整備を行うことで、様々な場面で理解が深まり、お互いに協力しながら日々生き生きと学んでいます。

また、あいさつ日本一の学校を



一年生を迎える会

目指し、学校全体で取り組んでいます。毎週木曜日は、企画委員の児童による「あいさつ運動」を展開しています。今年度は、あいさつがよくできた登校班を表彰する予定です。

さらに、くぬぎ班という異年齢集団による清掃や共遊などの活動や、児童会が主体となつて行う「いじめゼロ」集会、コロナ禍ではありませんが、六年生が運動会の全校踊りを一年生に教えるなどの交流も行っています。夏休み中の近隣の中・高校生による学習支援は、児童のキャリア形成にも一役かっています。これからも、思いやりの心をもち励まし合う子どもの育成を目指し、教育活動を充実していきたいと思えます。

特色ある学校づくり

地域で子どもを見守る「わんわんパトロール隊」

下野市立緑小学校 高橋 美恵子

令和三年二月、児童の安心安全な登下校を目指し、地域の方が愛犬の散歩に合わせて子どもを見守りを行う「わんわんパトロール隊」(緑小わんパト隊)を結成した。

本校は、J R宇都宮線自治医大駅から歩いて十五分に位置し、住宅街に囲まれた学校である。その学区は狭く、最も遠い児童でも十五分以内で登校できる。交通量の多い道路を渡ってくる登校班もあるが、学校周辺では遊歩道が整備されている。登下校の見守りとしては、保護者全員が「学校安全ボランティア(スクールガード)」として登録し、定期的な見守り活動を実施している。「子どもを守る家」の登録も二十軒程ある。しかし、日々の登下校の様子をみると、毎日、誰かの見守りがあるとは限らない。そこで、学校運営協議会で「児童の登下校や放課後の見守りの強化」についての協議が始まった。協議の内容は、隊員の募集や登録方法、隊員と分かるようにする方法等である。令和元年度二月から一年かけて準備を進め、この度の活動開始となった。



募集には、各地区の自治会長が協力してくださった。そして、隊員の証として「わんパトバッグ」を制作することとなった。このバッグ制作には、学区内にあるコミュニティ推進協議会が資金面で協力してくださった。「わんパトバッグ」には、児童が考えたキャラクター「みどりん」を印刷した。色も緑小にちなんで緑色。隊員は、このバッグに犬の糞の処理道具や飲み物等を入れて、散歩しながら見守り活動をしている。



下校の様子

これから「わんパト隊」の活動が、多くの地域の方に認知されて登録者が増え、防犯効果が高まることを期待している。また、子どもたちが隊員の方と挨拶を交わすことで、更に地域と学校のつながりを深めたい。今後、この取組は中学校区に広めることを計画している。

自慢のビオトープ「保和のせせらぎ」

栃木市立家中小学校 中田 伸幸

本校は、明治六年保和学舎として開校し、もうすぐ百五十周年を迎えます。「保和」には「児童の和を大切にする」という意味が込められています。

ビオトープ「保和のせせらぎ」は平成十年度に完成し、そこには様々な水生の植物や昆虫、魚などが生息しております。

特別支援学級「ポニョ」「トトロ」の生活単元学習の一環として当初は、子どもたちが「ザリガニや魚を捕まえたい！」という気持ちから始まりました。ザリガニは捕まえられるけれど、魚を全然捕まえることができず、悔しさであふれていたところ、魚を捕まえるためには、たくさん魚がいればいいのではという子どもたちのアイディアを基に、ではどうすれば魚が気持ちよく過ごせるかについて考えました。頭を悩ませていた中、ある児童が「水がたくさんあると棲みやすい。」という意見を出しました。当時は、水かさが少なく流れもほとんどありませんでした。なぜ、こうなっているかを追究しました。そこで周辺を歩き、流れを遮っていた木が朽ちて、そこから水が外に流れ出していたことを



発見しました。子どもたちは、新しい流れを遮る板を完成させ、流れる水の量や速さが増すことで活気が戻り、枯れていた川の流れも戻って来ました。近所の方々もこのことに気付いて喜んでくださり、子どもたちのやる気も更に高まっていききました。更に生き物が棲みやすくなるために、周囲のゴミ拾いや草むしり、川底にたまった落ち葉や泥土のかき出しを進んで行うようになりました。地域の方々がボランティア活動で整備に力を貸してくださることにより、活動しやすくしていただいております。「保和のせせらぎ」での学習により、子どもたちが知恵を出し、進んで働き、まさに主体的で対話的な深い学びが成立していると考えっております。


 Cosmos
 
 栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

鈴木 厚子

本会は、しなやかな思考による学校経営や確かな教育の創造を目指し、研鑽を積むことを目的として、公立小・中学校及び義務教育学校の女性管理職三百二十六名（女性校長百十九名）で活動しています。

各学校では、感染症対策と教育活動の両立に努めているところですが、昨年度以来、コロナ対応をきっかけに今までの活動を見直し、「不易と流行」（変えてはならないものと変えていくもの）を考えるよい機会となりました。本会においても、総会や研修会の在り方を検討し再構築しました。まさにしなやかに柔軟に考え、変化を「進化」にしていければと思います。

今年度計画の事業等は、感染状況を踏まえて実施していくこととなります。また、来年度は関東プロ女性校長会栃木大会が予定されています。現在は実行委員会を立ち上げ、全国や関東女性校長会とも連携し、様々な状況を考慮しながら、準備を進めているところです。今後も女性管理職の資質向上のため、活動を展開してまいります。


 「とちぎの子どもたちの
学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

「とちぎつ子学力アッププロジェクト」は、今年度で八年目となります。各学校においては、「学力調査の結果等から課題を見いだし、その解決を図るための取組を推進する」という、学力向上に向けた検証改善サイクルの構築・運用が図られてきたと実感しております。

五月二十七日には、本プロジェクトの要となる「とちぎつ子学習状況調査」が行われました。七月下旬に調査結果が学校に送付されます。これまで、調査結果を児童生徒の実態把握に活用するだけでなく、先生方が自ら調査問題を解き、出題の趣旨や問い方などを確認することなどを提案して参りました。ぜひ、調査の目的を理解するとともに、調査問題や調査結果の効果的な活用を図ることで、学力向上に向けた学習指導の充実につなげていただきたいと思います。

今後は、プロジェクトの更なる充実を図ることで、学校や市町における学力向上に向けた取組を支援していきたいと考えております。

令和三年度

関プロ理事会だより

栃木県小学校長会副会長

松本 和士

五月七日、各理事勤務校並びに各県事務局をZOOMでつなぎ、オンラインによる第一回関プロ理事会が開催されました。

一 会長あいさつ文要旨

関プロ栃木大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、誌上開催とした。研究成果である貴重な提案は、大会誌に加えDVDにも収録し各都県へ送付するので、学びの機会として有効に活用いただきたい。

二 協議

○令和二年度会務、会計、監査報告
○令和三年度役員選出

・ 会長（群馬県 阿久澤一広）
・ 副会長（栃木県 丸山周二）
・ 幹事（群馬県 折田一人）

○令和三年度事業計画案、予算案
○第七十三回関プロ栃木大会

・ 大会誌発行を以て開催とする
○第七十四回関プロ群馬大会

・ 令和四年六月九・十日
○全連小七十五年記念式典

・ 第七十五回全連小東京大会他
・ 令和五年十月十九・二十日

・ 参加者二千五百名程度を予定
・ 栃木県から一発表予定
協議事項は、全て承認されました。

「全国連合小学校長会

第七十三回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

丸山 周二

五月十九日に開催を予定していた第七十三回総会・研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京に参集しての開催は中止となり、開会式と文部科学省初等中等教育局長からの講話についてのみオンラインで行われた。

総会では、本年度より会長となった東京都の大字弘一郎校長からの挨拶、令和二年度の報告（会務報告、事業報告、監査報告）と、議案として本年度の活動方針、事業計画、予算案、宣言決議に関することが挙げられ、紙面決議において全て承認された。

研修では、文部科学省初等中等教育局長 瀧本寛様から「当面する初等中等教育の諸課題」と題し、「①少人数学級の推進」「②学校における新型コロナウイルス感染症対策」「③学校における働き方改革」「④GIGAスクール構想の推進」「⑤いじめ・不登校・児童虐待対応等」「⑥令和の日本型学校教育の構築を目指して（中教審答申）」「⑦新学習指導要領」等についての講話があった。

閉会式では、今年度の全連小事務局員の紹介があり、閉会となった。

話題の広場

地域の人々と共に

さくら市立喜連川小学校
齋藤 孝之

本校は、旧喜連川町の五つの小学校が統合され、平成二十二年に開校した学校です。本年度で開校十二年目を迎えます。本校の敷地内には「田中稲荷神社」があり、朝や夕方には、近くに住んでいる神社の持ち主や近所の方がお詣りに訪れます。私は敷地内の巡回をしながら、子どもたちや保護者、教職員の安全・安心をお祈りをしているのが毎日の日課となっています。また、本校は「地域に支えられた学校」でもあります。地域の方が学校に来てくださり、子どもたちと活動する場面が数多く見られるからです。五名の「地域と学校を結ぶコーディネーター」の方々を中心に、「学びの環境応援隊」「図書応援隊」「遊び応援隊」「お掃除の神様隊」の四つの学校支援ボランティア、放課後の児童支援の活動である「喜小っ子ふれあいスクール」など様々です。地域のひととのふれあいが、心温かい子どもたちを育てています。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長
村岡 裕之

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇任おめでとうございます。運営拠出金委員会は、校長会の主体的活動の充実強化を図ることにより、校長がその地位を確立し、職務を遂行するために行う諸活動の財源（運営拠出金）の保管・管理をする目的で設けられています。運営拠出金は、本会に入会される際に、皆様からお預かりしています。さて、本委員会では、本年度開催予定だった関プロ栃木大会に向けて、準備資金や開催資金を積み立てて参りました。しかし、ご存知のとおり、大会が誌上発表となったために、大幅な予算の見直しを行ったところでした。また、関プロ栃木大会以降も、県校長会七十五周年行事等が予定されており、引き続き資金の積み立てを行って参ります。会員の皆様には、本委員会の活動の趣旨をご理解の上、ご協力の程お願い申し上げます。

県小学校長会事務局だより

事務局長
吉成 隆志

新型コロナウイルス禍において、昨年度は県小学校長会の事業について運営方法や事業そのものの見直しを行いながら、感染予防を第一に考えて手探りで進めてきました。本年度は、更にウエブ会議等のインターネットを積極的に活用し、県小学校長会の使命を果たしていきたいと考えています。年度当初の理事研修会では新役員の承認を行い、定期総会はウエブ参加と会場参加のハイブリット型で開催することといたしました。昨年度、多くの実行委員の皆様にご協力をいただいて準備を進めてきた関プロ栃木大会が誌上発表となってしまうことは、大変残念ではありますが、運営の細部まで準備が進められたことに対しまして、心より感謝申し上げます。栃木県小学校長会事務局は、今年度も吉成事務局長と高柳事務局主任です。勤務は九時〜十六時です。不在の場合は留守電設定にしておきますので用件をお話ください。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活は大きく変化しました。先の見えない中、各学校とも危機管理体制を整えて教育活動を進めていることでしょう。

感染症流行の兆しが見え始めた頃、本町では教育長から「凡事徹底」という言葉が伝えられました。以来、本校でも、今できる当たり前のことをいっつも以上に徹底しながら、授業や学校行事等を行ってきました。こうした取組が子どもたちの健やかな成長とともに、生きる力にもつながると信じています。

本号の発行に際してご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

上三川町立坂上小学
鈴木 智喜

